

(注) 本月報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報(2019年8月)

【内政】

- タロン大統領は、ベナン独立59周年の演説において、大学卒業資格を保有する若年層2,000人を民間・公的企業において研修させることを公表した。(2日, L'Économiste 紙)
- 7日, プルデンシオ代表の率いる UDBN 党は、政党登録証を獲得した。(9日, L'Événement Précis 紙)

【外政】

- 21日, ナイジェリアはベナンを含む近隣諸国との陸路の国境を閉鎖した。(22日, La Nation 紙)
- 28日, TICAD7参加のため訪日中のタロン大統領は、ナイジェリア・ブハリ大統領と会談した。(29日, La Nation 紙)

【治安】

- 5日, アヘメ湖において渡し船が転覆し、12名の死者を出す事故が発生した。生存者は5名であった。(6日, La Nation 紙)

【経済】

- 7日, 閣議は日本の遠藤設計事務所に3A 地区の地域病院及びウィダのモデル病院の建設、アラダ病院の拡張を委託することを決定した。(9日, Le Matinal 紙)
- 20日, 小西淳文駐ベナン日本国大使とピオ・チャネ計画・国務大臣は共同記者会見を開き、約69億フラン CFA(14億円相当)の学校建設及び給水施設の整備計画を発表した。学校建設はベナン全土75市に及ぶ。(21日, La Nation 紙)
- 27日, TICAD7に参加予定のベナン代表団及び駐日ベナン大使館は、横浜市において日本の経済界を対象にシンポジウム「ベナン: 西アフリカ市場への玄関口」を開催した。(28日, La Nation 紙)

※下記内容は、La Nation 紙, Le Matinal 紙, L'Événement Précis 紙, L'Économiste 紙, La Nouvelle Tribune 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- ・ タロン大統領は、ベナン独立59周年の演説において、大学卒業資格を保有する若年層2,000人を民間・公的企業において研修させることを公表した。(2日, L'Économiste 紙)
- ・ 5日, 2019年国民議会第5回特別会期が開会した。本会期は、2020年度の予算審議に充てられる。(6日, Le Matin Libre 紙)

- ・ 7日、プルデンシオ代表の率いる UDBN 党は、政党登録証を獲得した。(9日, L' Evénement Précis 紙)
- ・ 8日、2020年度議会予算案が国民議会で可決された。約139億フラン CFA(27億8,000万円相当)と推定される。(9日, La Nation 紙)

【外政】

- ・ 13日、ペン・ジンタオ駐ベナン中国大使は、HAAC の代表レミ・プロスペール・モレット代表を表敬訪問し、ジャーナリスト及びメディア関連の公務員の育成、機材供与等について意見交換を行った。(14日, L' Économiste 紙)
- ・ 21日、ナイジェリアはベナンを含む近隣諸国との陸路の国境を閉鎖した。(22日, La Nation 紙)
- ・ 26日、タロン大統領は28－30日にかけて開催される TICAD7参加のため、ベナンを出発した。(27日, Le Matinal 紙)
- ・ 27日、タロン大統領は、羽田空港に到着し、塚原前駐ベナン日本国大使に迎えられた。(29日, Le Matinal 紙)
- ・ 28日、TICAD7参加のため訪日中のタロン大統領は、ナイジェリア・ブハリ大統領ら西アフリカ近隣諸国の国家元首らと会談した。(29日, La Nation 紙)

【治安】

- ・ 3日、共和国警察は、2019年第1四半期にベナン全土で5.5トンの不正流通薬を押収したことを発表した。(5日, Le Matin Libre 紙)
- ・ 5日、アヘメ湖において渡し船が転覆し、12名の死者を出す事故が発生した。生存者は5名であった。(6日, La Nation 紙)
- ・ 7日、閣議は不正流通薬対策のため、薬剤情報を管理するシステム(e-pharmacie プラットフォーム)の設置を決定した。(8日, Le Matinal 紙)
- ・ 12日、ボルグ県ンダリ市において、強盗容疑者の釈放を求めて市民が警察署を襲撃する事件が発生した。(13日, Le Matin Libre 紙)
- ・ 国家公衆衛生局の報告によれば、2019年7月にベナン南部の複数の市でコレラ17例が検出された。(28日, L' Evénement Précis 紙)

【経済】

- ・ 国立統計・経済分析研究所の発表によれば、2019年第一四半期におけるベナンの輸出先の第一位はバングラデシュであり、輸入元の第一位はインドであった。(8日, L' Économiste 紙)
- ・ 5日、ブルームフィールド投資会社は、ベナンの投資評価に関して、安定的評価を下した。長期的見通しで A-、短期的見通しで A2(ともに安定的)と評した。(7日, Le Matinal 紙)

- ・ 7日、閣議は日本の遠藤設計事務所に3A地区の地域病院及びウィダのモデル病院の建設、アラダ病院の拡張建設を委託することを決定した。(9日、Le Matinal 紙)
- ・ 20日、小西淳文駐ベナン日本国大使とピオ・チャネ計画・国務大臣は共同記者会見を開き、約69億フラン CFA(14億円相当)の学校建設及び給水施設の整備計画を発表した。学校建設はベナン全土75市に及ぶ。(21日、La Nation 紙)
- ・ 20-23日、第11回中国製品の見本市が、コトヌ市プラコジ地区にある中国商業センターで開催された。(26日、L'Économiste 紙)
- ・ 経済・財務省が公表した2019年第1四半期の景気状況報告によれば、ベナンの大企業における雇用者数が前年同期比に比べ7%上昇した。(28日、L'Économiste 紙)
- ・ 27日、TICAD7に参加予定のベナン代表団及び駐日ベナン大使館は、横浜市において日本の経済界を対象にシンポジウム「ベナン:西アフリカ市場への玄関口」を開催した。(28日、La Nation 紙)
- ・ 27日、TICAD7に参加すべく訪日中のズマル・デジタル経済・通信大臣は、ICT分野の円卓会議に出席し、ベナンの今後の展望について意見を表明した。(28日、La Nation 紙)
- ・ 27日、TICAD7に参加中のワダニ経済・財務大臣は、日本の経済界と意見交換を行った。この後、日本の視察団がベナンを訪問することとなっている。(30日、Le Matinal 紙)
- ・ 29日、マリア・グレタ第二発電所の開所式がピオ・チャネ計画・国務大臣及びウス・エネルギー大臣出席の下、実施された。(30日、La Nation 紙)

【文化・その他】

- ・ 1日、ベナン独立59周年記念式典及び陸軍パレードがコトヌ市で開催された。(2日、La Nation 紙)
- ・ 8日、カリム幼少・初等教育相、カッポ中等・技術教育・職業訓練相、アタナソ高等教育・科学研究相は共同記者会見を開催し、2008年以降採用された教員の能力評価を実施することを発表した。(9日、La Nation 紙)
- ・ 8日、ペン・ジンタオ駐ベナン・中国大使は学校給食用の米4,084トンを供与する計画の署名式をピオ・チャネ計画・国務相と実施した。(9日、La Nation 紙)
- ・ 22日、ペン・ジンタオ駐ベナン・中国大使は、2019-2020年度に中国の大学に留学予定のベナン人学生63名に対し、入学許可書の手交式を実施した。(26日、La Nation 紙)
- ・ 26日、モロッコ・ラバトで開催されているアフリカスポーツ選手権において、ベナン人空手家のオセアヌ・ガニエロ選手が銅メダルを獲得した。(27日、La Nation 紙)
- ・ 27日、TICAD7参加のため訪日中のタロン大統領は、プロバスケットボールの八村塁選手と面会した。(28日、La Nation 紙)
- ・ 29日、非政府組織ソーシャル・ウォッチ・ベナンは、ベナンの政界における男女の平等に関する検証を行った。(30日、L'Événement Précis 紙)